

ニュース

西日本水害特報

今回の西日本水害に際し編集部では早速現地及び国鉄、建設省と連絡をとり惨状なまましき写真を始め、被害状態の概要を知り得たのでここに発表することとした。期日その他の関係上重複する箇所もあるが御諒承願いたい。なお調査に協力して下さった関係方面に厚く謝意を表する。(編集部)

○国鉄を中心とする災害について

6月25日以来北九州を通り本邦南岸に梅雨前線が停滞していたところへ、黄海方面より北東に進んだ低気圧がこの前線上に停滞したため、北九州一帯は60数年ぶりといわれる豪雨となり、各地に被害が頻発し、各所で線路は浸水した。とくに遠賀川、筑後川、矢部川、白川、大分川など各所で破堤氾濫し、鉄道線路は各地で寸断された。

この雨は27日一旦小降りとなつて、一応しゆうびを開かせたが28日10時頃より関門地区の豪雨は物凄く、時雨量60mmに達し、このため門司操車場構内は軌条面上の冠水1mに達し、関門トンネルは防衛も空しく、下り線は12時30分、上り線は同40分、ついに排水要員を引揚げた。トンネル内の浸水は中心部約1.7kmが雨水充満し、上下線とも不通となつた。

これとともに中国、四国の西部、及び山陰地方にも豪雨があり、山陽本線小郡下関間は一部不通となり、山陰線、予讃線も局部的に一時不通となつた。

29日6時までに降つた各地の降雨量は(国鉄記録)

| | |
|-----------|------------|
| 門司 621 mm | 東唐津 804 mm |
| 折尾 430 | 伊万里 629 |
| 直方 692 | 長崎 236 |
| 博多 994 | 大分 648 |

佐賀 710 豊後森 793
熊本 595 大牟田 693

この豪雨によつて国鉄の被害は土木関係総被害件数1723件でその内訳は表-1に、また建物関係の被害調を表-2に示す。

28日午前より門司地区の豪雨のため関門トンネルを初め、鹿児島本線門司枝光間、折尾赤門間、東郷福岡

表-1 鉄道線路被害件数

| 種別 | 門司 | 大分 | 熊本 | その他局 | 計 |
|------------|-------------|------------|-------------|--------------|---------------|
| 橋台流失変状 | 11 | 1 | — | 1 | 13 |
| 橋脚流失変状 | — | 5 | 2 | — | 7 |
| 橋桁流失変状 | 2 | 3 | 2 | — | 7 |
| 軌道(線路)流失 | 1 | 5 | — | — | 6 |
| 道床流失 | 122 | 29 | 26 | 17 | 194 |
| 土砂流入 | 48 | 64 | 3 | 26 | 141 |
| 線路浸水 | 150 | 17 | 37 | 28 | 232 |
| 築堤(流失)崩壊 | 118 | 29 | 32 | 19 | 198 |
| 築堤沈下(陥没)亀裂 | 48 | 10 | — | 7 | 65 |
| 路盤流失 | 6 | 5 | — | 2 | 13 |
| 路盤沈下陥没(亀裂) | 44 | 4 | 12 | 4 | 64 |
| 切取崩壊 | 179 | 62 | 17 | 53 | 311 |
| 法面亀裂 | 12 | — | — | 3 | 15 |
| 落石 | 2 | 3 | — | — | 5 |
| 擁壁崩壊(変状) | 69 | 7 | 13 | 10 | 99 |
| 河川増水 | 12 | 10 | 7 | 8 | 37 |
| その他 | 18 | 26 | 4 | 30 | 78 |
| 合計 | 842 (36) | 280 (6) | 155 (10) | 208 (196) | 1485 (248) |

- 註 1. () 外の数字は25日より29日6時までの発生件数である。
2. () 内の数字は29日6時以降1日6時まで増加した件数で別掲である。
3. その他局とは鹿児島、四国、広島、米子、岡山、の各局で、このうち、主なもの広島と四国局である。

間等が不通となりさらに被害が増大した。

災害発生と同時に西部総支配人室に災害対策本部が設置され、6月30日早朝現地に到着した江藤施設局長の指揮下に、現場従事員の必死の努力によつて漸次開通を急いでいる。

29日20時には日豊線が全線開通、30日には長崎線も全通と応急工事もようやく軌道にのり、幹線重点で作業を急いでいるので、鹿児島本線は今後降雨がない限り、7月4日午後全線開通の見込みである。

表-2 建物関係被害調

(28.6.30 17時現在 国鉄施設局)

| 局別 | 種別 | 倒壊 | 半倒壊 | 傾斜 | 浸水 | 登 | 換 | 壁 | 屋根破損 | 板塀 | 井戸 | 雑件 |
|-----|----|----|-----|----|------|-------|------|----------------|----------------|------|-----|-----|
| | | 棟 | 棟 | 棟 | 棟 | 枚 | 枚 | m ² | m ² | m | 箇所 | |
| 四国 | — | — | — | 4 | 23 | 270 | 68 | 1200 | — | — | — | 5 |
| 広島 | 6 | — | — | 1 | 191 | 856 | 215 | 3200 | 20200 | — | 35 | 20 |
| 門司 | 13 | 25 | — | — | 885 | 10620 | 2655 | 110625 | 26000 | 不明 | 5 | 128 |
| 大分 | — | — | — | 34 | 69 | 1672 | 447 | 13400 | 8465 | — | 235 | 52 |
| 熊本 | 3 | 4 | — | 7 | 72 | 3100 | 1987 | 31800 | 19800 | 2500 | 100 | 1 |
| 鹿児島 | — | — | — | — | 48 | 324 | — | 300 | 1575 | — | — | 10 |
| 合計 | 22 | 29 | — | 46 | 1288 | 16842 | 5372 | 160525 | 76040 | 2500 | 375 | 216 |

図-1 線路不通箇所 (28.6.29 現在)

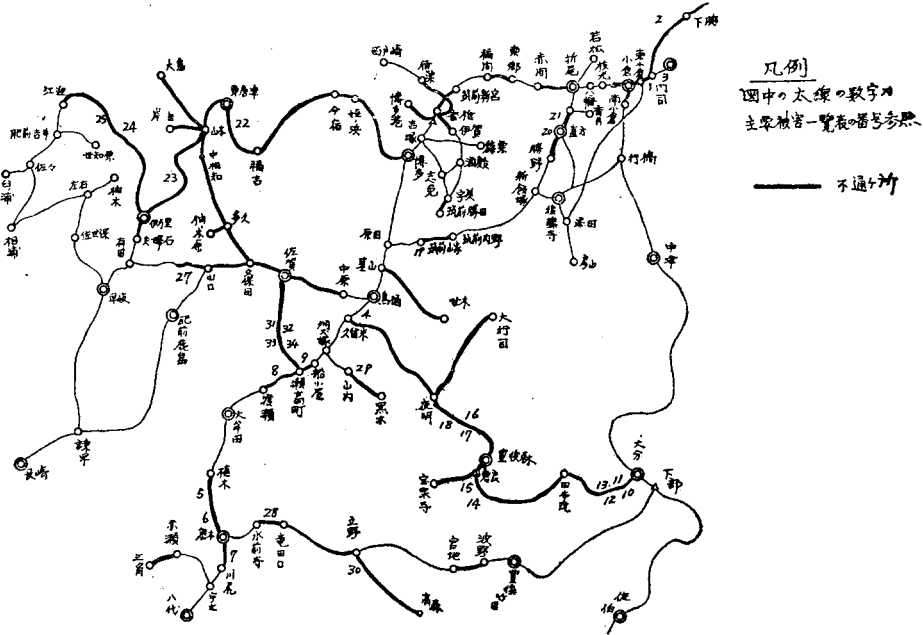


表-3 主要被害概況

(28.6.29 現在, 番号は図-1 参照, 国鉄施設局)

| | | | |
|----|-------|-------------|--------------------------------------|
| 1 | 鹿児島本線 | 門司線橋脚内上り | コブコブ1桁(2桁)落下橋台傾斜 |
| 2 | --- | 関門トンネル | 1トン内浸水 約 7000 m ³ |
| 3 | --- | 門司港 - 香葉 | 延長 2.5km 2号埋没 (RL 17.15M) |
| 4 | --- | 北前庄 - 大井 | 延長約 2.5km 築堤流失 |
| 5 | --- | 西里 - 上熊本 | 高さ 2.5m 延長 1.2km 築堤崩壊, 切取崩壊 |
| 6 | --- | 上熊本 - 熊本 | 築堤流失 高さ 1M 延長 1M |
| 7 | --- | 熊本 - 川尻 | 築堤流失 高さ 2m 延長 250m |
| 8 | --- | 瀬崎町 - 渡瀬 | --- 高さ 2.3m 延長 250m |
| 9 | --- | 朝小原 - 瀬崎町 | 矢部川橋梁 橋脚/基沈下 (4.500 m ³) |
| 10 | 久大本線 | 鬼ヶ嶽 - 向上 | 築堤崩壊 7000 m ³ |
| 11 | --- | 小野屋 - 鬼ヶ嶽 | --- 1500 m ³ |
| 12 | --- | 小野屋取橋内 | --- 1500 m ³ |
| 13 | --- | 新由布 - 湯平 | 才治川橋脚流失, 才治川橋脚崩壊 |
| 14 | --- | 引治 - 中村 | 延長 3.1km (5.12M) 湖原, 橋台崩壊 |
| 15 | --- | 鬼ヶ嶽 - 引治 | 築堤崩壊 2000 m ³ |
| 16 | --- | 豊後三石 - 豊後中 | 才治川橋脚流失, 才治川橋脚流失 |
| 17 | --- | --- | 築堤流失 1500 m ³ |
| 18 | --- | 豊後線 - 豊後三石 | 2号埋没不能, 4号埋没不明, 橋脚基沈下 |
| 19 | 築豊本線 | 筑前野 - 筑前山家 | 築堤崩壊 (高さ 2.5m) 4,000 m ³ |
| 20 | --- | 直子 - 筑野 | 切取崩壊 5,300 m ³ |
| 21 | --- | 筑前世志 - 筑前大木 | 1号埋没不能, 2号埋没, 築堤流失被害大, 浸水 |
| 22 | 筑肥線 | 鹿家 - 淡海 | 切取崩壊 1,500 m ³ |
| 23 | --- | 枝里 - 駒鳴 | 築堤流失 高さ 3.5m 延長 100m |
| 24 | 松浦線 | 湯崎 - 今福 | 築堤流失 高さ 3.3m 延長 170m (地上) |
| 25 | --- | 今福 - 瀬川 | 築堤流失 5,000 m ³ (2.30m 高さ) |
| 26 | --- | 早戸口 - 江迎 | --- 1,000 m ³ |
| 27 | 長崎本線 | 牛津 - 阿部山 | --- 4,000 m ³ |
| 28 | 豊肥線 | 水前寺 - 老田 | 才治川橋脚流失, 橋脚2号流失 |
| 29 | 矢部線 | 山内 - 北川内 | 1号埋没不能, 2号埋没, 築堤流失 |
| 30 | 高森線 | 支野 - 長陽 | 長さ 2.5km トンネル内浸水 1.5M 延長 200m |
| 31 | 佐賀線 | 瀬崎町 - 三橋 | 築堤流失 延長 600m 高さ 2.1m |
| 32 | --- | --- | 築堤流失 矢部川橋脚流失 |
| 33 | --- | --- | 才治川山内橋脚流失 |
| 34 | --- | 北川内 - 筑前 | 花葉川河川橋脚崩壊 |

6月29日現在の線路不通箇所調を 図-1 に, また主要被害概況を表-3 に示す。

水没した関門トンネルは延長の 3.6 km 中上り線は 1776 m, 下り線は 1650 m の間が泥水のため不通となっており, 図-2 のごとく排水ポンプを配置し, 500 名の職員, 臨時人夫を配置して, メタンガスの発生と 1 日約 1300 m³ の洩水と云う悪条件の下で約 10 万 m³ の排水に努力している。開通は 7 月中旬の予定である。

なお今回の災害の被害額は現在までに判明しているもののみで, 国鉄で約 50 億円に達し, 内施設関係のみで約 30 億円にのぼる見込みである。

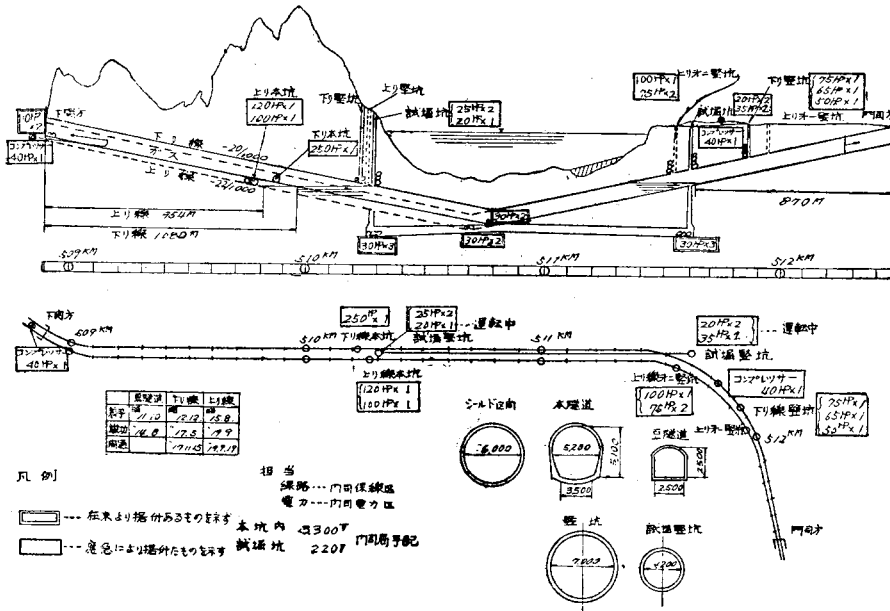
(7月4日現在記, 日本国有鉄道施設局)

○建設省を中心とする災害について

(1) 気象の概況 昭和 28 年 6 月 25 日早朝から南九州に降り出した雨は梅雨前線の北上とともに, 次第に北に拡がって, 25 日午後から九州の中部と北部で強くなつた。その後この梅雨前線は九州の中部と北部の間の巾 100 km くらいのせまい地域を, 北にゆつくり移動し時には停滞して, 28 日午後に至つてようやく南九州まで南下した。この間に梅雨前線の北側およそ 50 km くらいの巾で雷雨をともなつた強い雨が降つて, 特に前線が通る前後にははしつく雨となり, 雨量は各地ともぐんぐんふえて未曾有の大雨となつた。

図一2 関門隧道水害復旧計画状況

(28.7.4 現在)

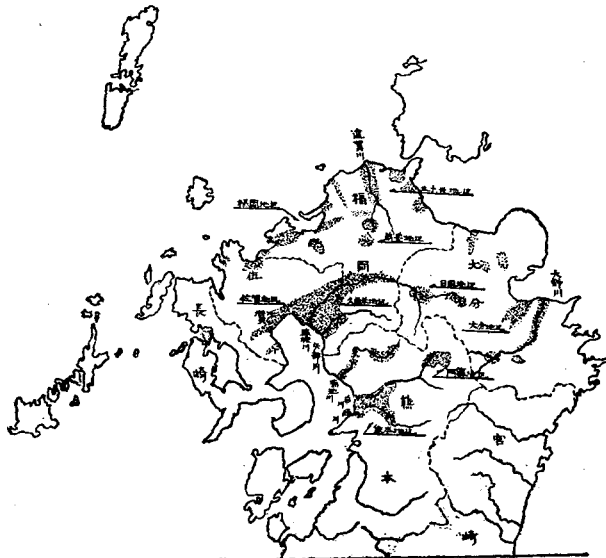


すなわち、25日の雨は前線の北上にともなつて九州の北西部に最も多く降り、まず佐賀平野、筑後平野の大水害となつた。26日には雨の区域が熊本県に南下して白川の氾らんとなつて熊本市が浸水した。27日は一時前線の活動が鈍つたようにみえたが雨の区域は大分県に移り、筑後川などは再び水位が上昇した。こ

の雨の区域は28日には再び北上して関門を中心とした工業地帯に移り関門トンネルの浸水や炭坑の水浸しを生じた。

図一3 九州地区浸水地域一覽 (九州地建調査)

(附 28.62.5~29)



(図中点の部分は浸水地図)

連続降雨量を調べてみると(九州地建及び気象台調査)最も大きいと思われる筑後川水源に近い小国ではふりはじめより28日9時まで952ミリ、日田711ミリ、大分704ミリ、熊本617ミリ、福岡629ミリ、佐賀586ミリとなっている。日雨量の最大は阿蘇山の432ミリ(26~27日)、熊本412ミリ(26~27日)、佐賀409ミリ(25~26日)、福岡311.3ミリ(25~26日)、また、1時間最大雨量としては下関77.4ミリ、佐賀72.3ミリ、福岡63.2ミリなどである。

(2) 被害の概況 このたびの豪雨にもなう被害の調査は目下進められており全貌をつかむにはなお時日を要する。現在まで判明している主なものは次のようである。河川関係で被害の大きかつたのは、筑後川、白川、矢部川、大分川、遠賀川、松浦川、菊池川、大野川等である。

筑後川では久留米市瀬ノ下で警戒水位5.5mに達した25日23時に、中流の福岡県朝倉郡峯城村でまず破堤し、26日正午頃には計画高水位7.6mを突破、このため各所の破堤が続出し、それにもかかわら

ず水位は上昇をつづけ、同日夕刻には計画堤防高 9.1 m に達した。このように多数の破堤をおこしながらなお増水をつづけたのは 25 日から 26 日にかけての豪雨がいかにか激しかったことを示している。26 日の夕方から雨勢弱まりまた堤防決壊多数のため水位は次第に下降しはじめたが、27 日から 28 日にかけての豪雨のため再び増水し、主な破堤箇所は合計 25 箇所となつた。次に阿蘇山系一帯の豪雨のため火山灰まじりの激流は熊本市を貫流する白川、坪井川その他を決壊氾らんさせて大被害をもたらし、遠賀川の決壊で筑豊炭田を水浸しにした。一方山崩れも各所でおきたが、特に門司市風師山では 28 日 11 時半頃、3 合目附近で約 300 m にわたつて土砂が崩れ、これにつづいて谷所からの奔流が市内に流れ込み大被害をおこした。また長崎県今福町の地じりは土砂量 100 万 m³ と推定されている。電力関係では筑後川、白川水系の発電所がことごとく発電停止となり、工事中の筑後川夜明発電所は、機械設備、諸材料等約 2 億 5 千万円の被害をうけ、竣工予定が約半年おくれることになつた。

以上は被害状況の一部であつて、いずれ各方面の調

査完了とともに被害の全貌が公表されるに至るものと思われる。これらの資料は主に、福岡管区气象台、九州地方建設局、九州電力株式会社より提供されたものであり、謝意を表する。(7月4日記)

(土木学会西部支部 篠原謙爾)

○西日本水害被害金額調

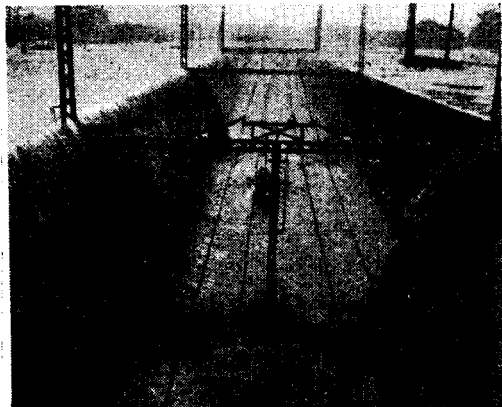
(28.7.3 西日本災害対策本部) (単位、億円)

| 県名 | 土木関係 | 農林関係 | 商工関係 | 民生関係 | 教育その他関係 | 計 | 備考 |
|----|------|------|------|------|---------|------|-------------------------------------|
| 熊本 | 65 | 266 | 51 | 298 | 19 | 699 | 6月29日午前2時現在、阿蘇地区が大部不明、熊本市の堆土崩壊量を含まず |
| 福岡 | 116 | 178 | 108 | 78 | 31 | 511 | 6月30日現在 |
| 佐賀 | 25 | 81 | 19 | 40 | 1 | 166 | 6月30日現在 |
| 大分 | 25 | 50 | 4 | 40 | 8 | 127 | 6月30日現在、日田玖珠地区一部不明 |
| 長崎 | 26 | 26 | 1 | 9 | 5 | 67 | 7月1日現在 |
| 山口 | 7 | 20 | 4 | 12 | 1 | 44 | 7月1日現在 |
| 計 | 264 | 621 | 187 | 477 | 65 | 1614 | |

- 註 1. この外に国道賠分約 380 億円と推定され、合計約 2000 億円と推定される。
 2. この被害額は各県当局において集計した概数であり全般的に今後計数の異動が予想される。

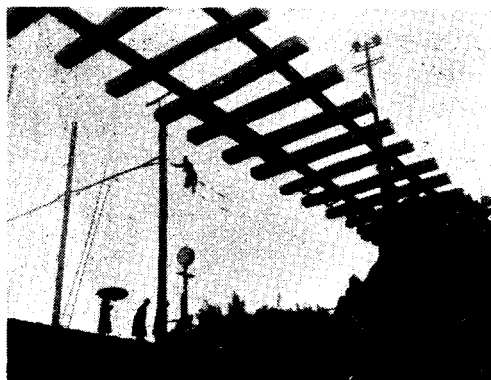
(建設省道路局国道課 神田九思男)

写真一 関門トンネル門司側入口
(滝のごとく濁水流れこむ)



(国鉄提供)

写真二 門司駅構内



(国鉄提供)

写真三 九州電力夜明発電所工事ダム現場



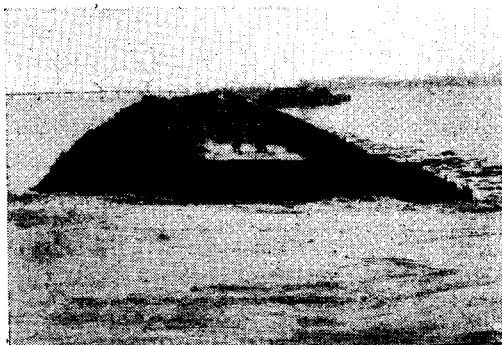
(九州電力提供)

写真-4 水没した遠賀川駅



(西日本新聞提供)

写真-5 遠賀川欠潰現場



(国鉄提供)

写真-6 福岡県沖端川新村橋上流
右岸欠潰



(福岡県庁提供)

写真-7 矢部川の水防作業



(福岡県庁提供)

写真-8 築豊本線築前植生-築前
植木間線路浸水



(国鉄提供)

写真-9 矢部川鉄橋の流失現場



(国鉄提供)

記 事

◎第1回理事会(昭.28.6.11)出席者:平井会長,福田,菊池両副会長,榎,岡本,片平,兼重,佐島,中路,最上の各理事,今回は事務引継のため立花副会長,富樫,今岡,本間の各理事出席,協議事項:1)5月中の行事その他の報告,2)各理事担当部門を決定

| | | | |
|--------|------|-----|------|
| 総務部長 | 兼重信雄 | 同次長 | 榎 修仁 |
| 経理部長 | 中島重雄 | 〃 | 中路誠三 |
| 編集部長 | 岡本舜三 | 〃 | 佐島秀夫 |
| 調査部長 | 坂本信雄 | 〃 | 篠原 清 |
| 研究連絡部長 | 最上武雄 | 〃 | 片平信貴 |

3) 他学協会等との連絡担当理事を決定

| | |
|-----------------|------|
| 日本学術会議力学研究連絡委員会 | 最上理事 |
| 日本工学会 | 最上理事 |
| 都市不燃化同盟 | 片平理事 |
| 建設機械化協会 | 兼重理事 |
| 日本写真測量学会 | 佐島理事 |
| 関東工業教育協会 | 最上理事 |

4) 各支部長の委嘱について

北海道支部 真井耕象氏(北大教授)
 関西支部 鈴木角一郎氏(奈良交通KK社長)

5) 夏季講習会の細目決定(別項参照)

6) 編集委員の改任について

| | |
|--------------------|-------------------|
| (留) 岡本 舜三 応力 | 東大生産技研 (委員長) |
| (留) 佐島 秀夫 測量 | 早大理工学部 (現副委員長) |
| 〃 長浜 正雄 鉄道ニュース | 国鉄技師長付 |
| 〃 神田九思男 建設省関係ニュース | 建設省道路局国道課 |
| 〃 菊池 洋一 橋梁,構造物,溶接 | 国鉄特殊設計室 |
| 〃 寺西 弘治 港湾 | 運輸省港湾局建設課 |
| 〃 福岡 正己 土質 | 建設省土木研究所 |
| 〃 柴原孝太郎 河川 | 〃 河川局開発課 |
| 〃 矢野 照雄 鉄道 | 国鉄関東総支配人付 |
| (新) 吉川 秀夫 水理,流体力学 | 建設省土木研究所 |
| 〃 三上 澄 応力,道路橋 | 都建設局道路課 |
| 〃 徳平 淳 上水,下水道 | 東大工学部(現編集幹事) |
| 〃 坂本 龍雄 発電,堰堤 | 電力中央研究所 |
| 〃 小松原 豊 施工,材料,建設機械 | 日本国土開発KK |
| 〃 丸安 隆和 コンクリート | 東大生研 |
| 都市計画関係(委員長に一人) | |

地方委員

| | | |
|--------|-------|------------|
| 北海道(新) | 北村市太郎 | 国鉄札幌工事事務所長 |
| 東北(〃) | 河上 房義 | 東北大学助教授 |
| 中部(留) | 荒井利一郎 | 名古屋工大教授 |
| 関西(〃) | 村山 朔郎 | 京都大学教授 |
| 中,四(新) | 河内 清彦 | 広島大学工学部 |
| 西部(新) | 篠原 謹爾 | 九州大学教授 |

退任される方

本間 仁,安部清孝,岩塚良三,及川 知,川口輝夫,畑野 正(地方委員:横道英雄,井部勇一,小田英一,大園貞則)

7) 関東工業教育協会土木部懇談会を6月22~25日に開催すること,8) 工業技術院からの研究課題の調査依頼については調査部に一任すること,9) 基金の運用については,10) 工業技術院から木材試験方法のJIS 制定のための委員推薦方については青木楠男,田原保二,岡本舜三の3氏を推薦すること,11) 明年の40周年記念事業については総務部で研究すること,12) 日本学士院会員の補充候補者として吉町太郎一氏を推薦すること。

◎各種委員会

1. 編集委員会(昭.28.6.22)出席者:岡本,佐島正副委員長,北村(北海道),河上(代後藤,東北),村山(関西),森,三上,菊池,鈴木,丸安,福岡,吉川の各委員,中川書記長,徳平幹事。協議事項:(1) 会誌及び論文集進捗状況報告,(2) 投稿論文及び新規受付論文の審査委員の決定,(3) 38巻8号登載論文を次のとおり決定。

森吉満助:トランシットの外焦式望遠鏡における水平又線の種々の調整法に対する理論的研究,大村裕:鋼鉄道橋の実測応力について,岩崎敏夫・千秋信一:静水中に落下する水流の実験,小川元:管内の砂水流れにおける各種限界流速について,水野高明・彦坂貞次:コンクリートアーチ橋の横荷重応力について,太田誠一郎・荒川正文:ステアリン単分子膜による細骨材の表面積の測定について

(4) 38巻6号討議依頼先の決定,(5) 編集委員に鈴木溪二委員(都市計画関係,首都建設委員会)を追加,福岡正己委員留学のため後任として,三木五三郎委員(土質関係,東大生産技術研究所)とそれぞれ追加及び交代を行い理事会に計ることとした。

2. 抄録委員会及び編集小委員会(昭.28.6.8) 出席者:佐島編集副委員長,森抄録委員長,林,松本,渡辺,南部,平島,吉村(代)の各委員,徳平幹事。協議事項:1)幹事において作製した各委員手持外国雑誌リストにより38巻7号抄録として林,松本両委員に各1篇づつ割当を行った。5)学会誌抄録欄に近着外国雑誌の論文題目,著者名等をのせるかどうか協議したのが次回に延期する。

◎その他

1. 関東工業教育協会土木部会懇談会(昭.28.6.24)

出席者:福田副会長,本間前理事,建設省(片平),国鉄(今岡),大成建設(佐々木),間組(井島),鹿島建設(伊藤),都立大学(大野),早大(兵藤),日大(神田),東大(最上)の諸氏,協議事項:まず福田副会長から懇談会の趣旨と経過の説明があり,本間氏司会の下に1)大学卒業生の就職問題, a)採用試験時期を11月初旬にして貰いたいとの大学側の希望に対し,公務員は人事院の試験の関係で困難な点もあるが,会社方面では考えられるが,何か制約があるとよるしい, b)体力及び基礎的学力が低下しているようだからこの点を考慮して欲しい, 2)大学院卒業生を特に考慮することは今の状態では困難であるが,新制大学卒業後採用の上定員に余裕があれば大学院へ預けて教育して貰う方法は考えられる。その他大学側及び採用者側との意見の交換を行い有意義に会を閉じた。

支部だより

1. 北海道支部 役員改選報告:支部長:真井耕象,幹事長:北村市太郎,地区常議員:上戸武司,酒井忠明,北村市太郎,商議員:板倉忠三,中村俊雄,高田実,今俊三,真島恭雄,古河順治,境隆雄,田中彦敏,浅井政治,加藤正人,小川清,小野喜治,小崎弘郎,小玉末松,安藤道夫,渋谷和夫,猪瀬寧雄,西島国造,早田英夫,丸島正男,幹事:戸村俊夫,佐久間純一,伊藤健二,小山道義,清水源長,前田幸雄,下村豊,渋谷克己,羽島栄治,芦生巖,事務所所在地:札幌市北7条西10丁目 日本国有鉄道札幌工事事務所内,
2. 関西支部 役員改選報告 支部長:鈴木角一郎,

幹事長:浦上衛門,常議員:天竺良吉,堀威夫,齋藤卯之吉,小西一郎,稲垣茂樹,商議員:岩井重久,八島忠,遠藤又吾,岡部次郎,山本隆一,海淵養之助,清水清三,伊藤富雄,谷征一郎,城塚孝雄,福林貞三,松本文彦,杉知也,池田通弘,吉田直茂,丸山二郎,牧田繁,松尾新一郎,後藤明治,小林嘉道,秋山養之助,三木巧,三宅未行,樋渡正美,天野毅彦,幹事:柴橋種造,森垣誠,成岡昌夫。

第1回役員会(昭.28.5.30)出席者:武井支部長,八島,遠藤,岡部,山本,海淵,清水,伊藤,城塚,丸山,松尾,後藤,小林,樋渡,天野の各商議員,浦上幹事長,森垣,成岡各幹事,中川主事,議事:1)昭和28年度支部長として鈴木角一郎君を推薦することに決定, 2)昭和28,29両年度関西地区常議員は次期幹事会で推薦することに決定す,米田正文君の後任として稲垣茂樹君を推薦した, 3)総会は丸山ダム見学会を兼ねて開催することとし,実行委員会を開催して具体的に準備すること, 4)昭和27年予算並びに事業報告及び決算について, 5)昭和28年度予算並びに事業計画について。

3. 西部支部 第3幹事会(昭.28.6.1)出席者:山東幹事長,天方,佐田,工藤,上田,和田,大塚(代)別所(代)の各幹事,

協議事項:1)寄附金依頼先追加について, 2)昭和28年度事業計画の一部変更, 3)6,7月の行事について, a)6月中旬大分県夜明ダム工事見学, b)7月上旬学術講習会開催, c)田代氏(九電)の講演会開催。

見学会(昭.28.6.19)夜明発電所建設工事(大分県日田郡夜明村),参加者約200名,当日A班は福岡より貸切バス4台を連ねて現場に到着, B

写真-1 夜明発電所現場



写真-2 夜明ダム現場



班は久大線夜明駅に到着、12時両班とも保木公園に合流、九電夜明建設所長石倉寛治氏から計画の概要説明があり、中食後13時より15時まで同発電所及びダム現場を見学した。雨にもかかわらず多数の参加者を得て盛会であつた。

第4回幹事会(昭.28.6.19)出席者：山東幹事長、天方、山崎、工藤、和田、大塚(代)、佐田(代)の各幹事、協議事項：見学会終了後開催 1) 28年度予

算決算中間報告、2) 昭和28年度寄附金受入状況報告、3) 今後の行事、i) 7月上旬九電田代氏の講演会開催、ii) 研究発表会(九大)を7月10日開催、iii) 商議委員会は7月中旬土木部長会議の際開催、iv) 8月夏季講習会、9月関門トンネル及び門司港見学、10月上椎葉見学、釈迦嶽トンネル工事見学、日鉄ストリップ工場及び洞海湾見学。

昭和28年6月分入退会報告(28.6.1~6.30現在)

1. 入会 224名(特3, 正19, 准47, 学155)
2. 退会 18名(正4, 准12, 学2)
3. 転格 6名准より正5, 准より学1)

会員現在数(28.6.30現在)

| 名誉員 | 賛助員 | 特別員 | 正員 | 准員 | 学生員 | 合計 | 増加数 |
|-----|-----|-----|------|------|------|-------|-----|
| 20 | 16 | 253 | 4747 | 5281 | 1319 | 11636 | 206 |

お知らせ

日本大学教授、前土木学会関東地区常議員、日本土質基礎工学委員会常任委員、同幹事長 卷内一夫氏は去る7月13日午前1時自宅において心臓マヒのため急逝されました。本会及び日本土質基礎工学委員会は、会員を代表しここに紙上を籍りて深く哀悼の意を表します。

昭和28年7月10日 印刷
昭和28年7月15日 発行

土木学会誌
第38巻第7号

定価 100円

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川一美
印刷者 東京都港区赤坂溜池5番地 大沼正吉
印刷所 東京都港区赤坂溜池5番地 株式会社技報堂

東京中央局区内 千代田区大手町2丁目4番地 電話 和田倉(20) 3945番
発行所 社団法人土木学会 振替東京16828番